

川沿いの 取組み実施に向けて

川沿いを、開放的で質の高い空間にしていくためには、「つながり」のあるまちづくりが求められます。川沿いは、道路や広場または民地等、状況はさまざまですが、その先の後背地となる市街地までの「つながり」をもたせることが大切です。

水面から水辺、その先の市街地まで「つながり」が生まれると、まちの賑わいから川沿いまでがウォークブルな空間となります。

1

開放的な水辺空間の形成

1 水面とまちのつながりについて

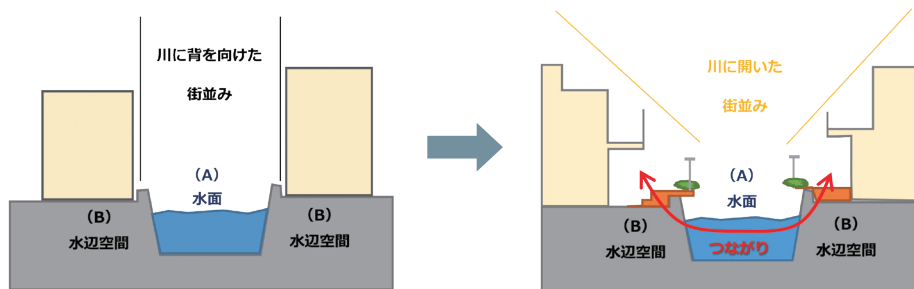
まちづくりや建築計画を進める際には、川とまちの「つながり」を考えることが重要となります。

●水面と対岸同士のつながりについて

水面を基軸に両岸につながりをもたせ、川に開いた街並みを形成します。

(B) 水辺空間	(A) 水面	(B) 水辺空間
● 川が視認しやすい柵のデザイン ● 川に顔を向けた建築物 ● 歩行空間・賑わい空間の創出 ● 建築物の上または中から川を視認できる間取り	対岸同士の つながり 	● 川が視認しやすい柵のデザイン ● 川に顔を向けた建築物 ● 歩行空間・賑わい空間の創出 ● 建築物の上または中から川を視認できる間取り

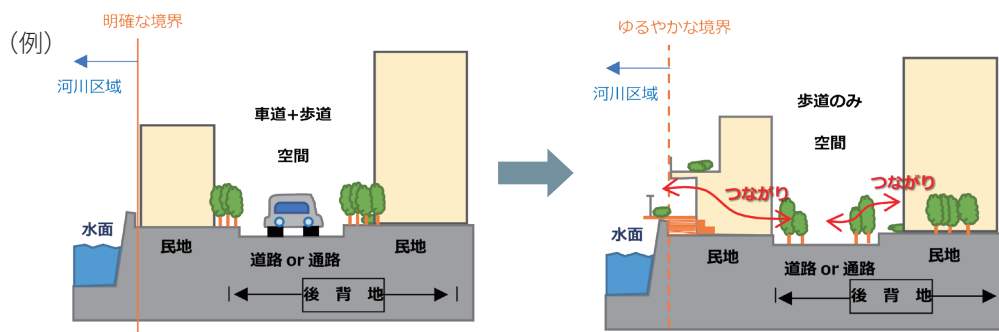
(例)



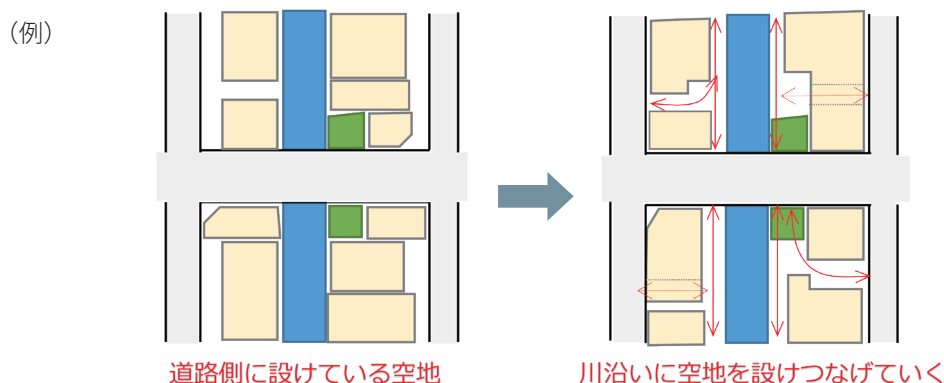
●水面から水辺、さらに後背地までのつながりについて

水面から水辺、その裏の後背地までつながりある空間を形成します。

(A) 水面	支援	(B) 水辺空間	支援	(C) 後背地
川を積極的に使う	←	水面と水辺空間の関係に つながりをもたせることで 川を開けた空間とする。	←	川と水辺空間を支える。 市街地と水辺空間を つなげる役割を担う。



●川沿いの空間の連続性 開放的な川沿いの空間をつなげ、連続性をもたせます。



2 川沿いの建築計画を検討する際の要点

川沿いで建築計画を進める際には、次の3つの要点に配慮し検討をしてください。

要点1

川に顔を向けた
建築計画とする

- 川沿いに建築設備や屋外階段を配置する場合は、水面又は周辺から見えないよう修景する。
- 建築物内の人の活動が川側から感じられるよう配慮した計画とする。

要点2

開放的な
水辺空間を創出する

- 水辺空間に空地を設けた配置とする。
- 隣接建築物と間隔を設け、建て詰まりを解消する。
- 後背地である道路等から水辺まで、近づける場所を設ける。

要点3

つながり・
連続性をもたせる

- 開放的な川沿いの空間に
つながりをもたせる。
- まちの賑わいや後背地との
つながりを大事にする。

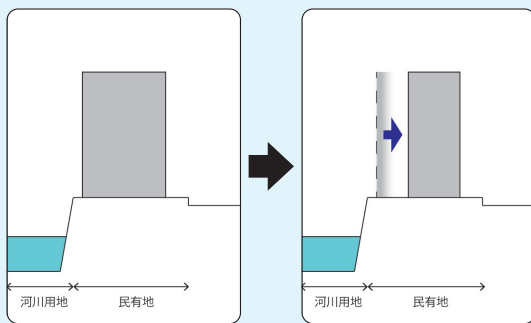
3 開放的な水辺空間の形成手法について

開放的な水辺空間を形成するための手法を示します。敷地の規模・形状、周辺環境、その他条件にあった形成手法を選択することが大切です。また、この形成手法は、建築・建造技術の進歩により増えていくことが想定されます。あくまで参考事例としての記載であり、計画毎に最善の手法を選択する必要があります。

(凡例) ● 手法の説明 ○ 川沿いに与える効果内容 ◆ さらに望ましい内容 ▲ 要検討内容

1 壁面後退

対象規模 (☒ 大規模 ☒ 中規模 ☐ 小規模)



● 川と民地の官民境界から壁面を後退させることで、空地を創出する。

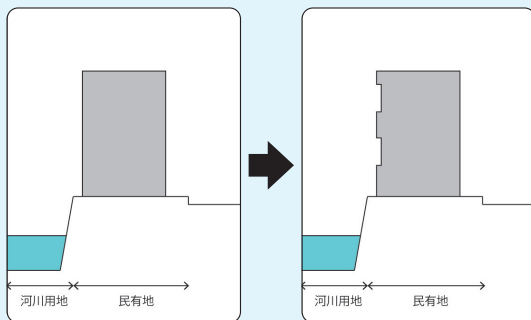
○ 川沿いの建築物の建て詰まりを解消できる。

▲ 建築基準法の道路斜線制限が厳しくなるため、緩和などの検討が必要となる。

▲ 壁面線を後退させることでのメリットが必要となる。

2 川に顔を向けた建築物

対象規模 (☒ 大規模 ☒ 中規模 ☒ 小規模)



● 川沿いに室外機や屋外階段などを設置しない。

● 屋外広告物を川沿いに向けて設置する場合は配慮する。

● 川側に居室を設けた間取りとする。

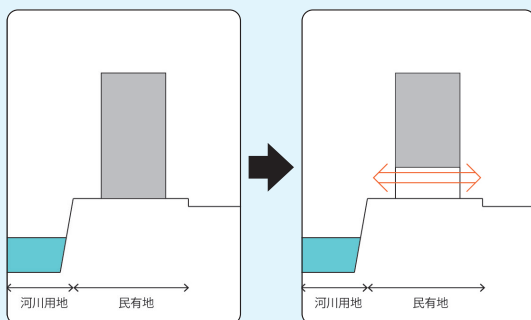
○ 建築物内の人が、川を生活に身近に感じることができる。

○ 建築物内からのあたたかい暮らしの明かりが、川を照らす。

○ 川の閉塞感を解消できる。

3 通り抜け空間の確保

対象規模 (☒ 大規模 ☒ 中規模 ☐ 小規模)



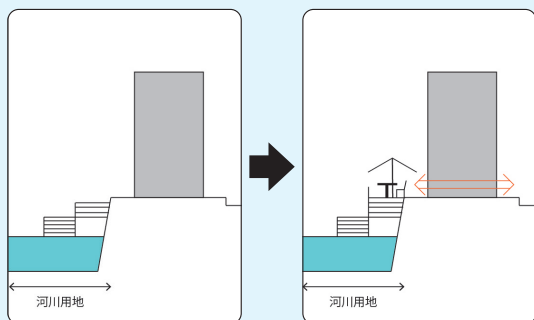
● 建築物の低層部に、川を眺められる位置まで通じる貫通路を設ける。

○ 川のイメージ向上に貢献できる。

◆ 誰もが利用できる環境が望ましい。

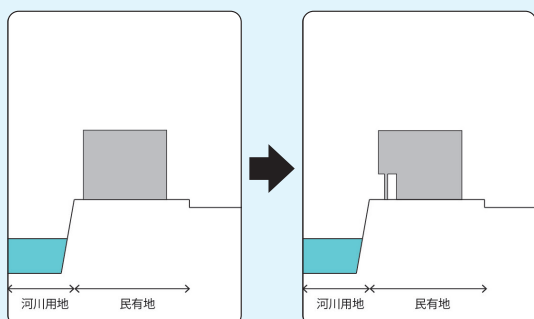
(凡例) ● 手法の説明 ○ 川沿いに与える効果内容 ◆ さらに望ましい内容 ▲ 要検討内容

4 防災船着場の拡充

対象規模 (☒ 大規模 ☐ 中規模 ☐ 小規模)

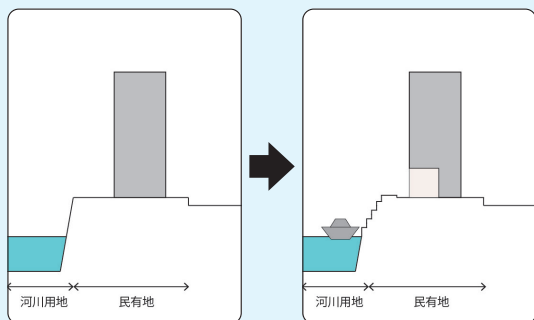
- 水面へのアクセスポイントを創出する。
- 非常時は、防災活動の場として活躍する。(防災面の向上)
- 安心・安全を確保した上で、平常時は川を活用した取組みに寄与する。(遊び場への貢献)
- ◆ 「3.通り抜け空間の確保」「5.川に面したピロティ」等を設けると望ましい。

5 川に面したピロティ

対象規模 (☐ 大規模 ☒ 中規模 ☒ 小規模)

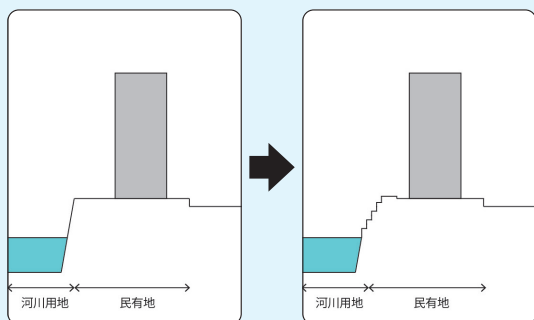
- 限られた敷地内において、半屋外空間を川沿いに設ける。
- 川沿いに日常活動の動線が生まれる。(川のイメージ向上に貢献)

6 船着場の整備

対象規模 (☒ 大規模 ☐ 中規模 ☐ 小規模)

- 大規模開発時に船着場を設置し、アクティビティの場として活用する。
- 川での遊び場として活用できる。(賑わい・観光に貢献)
- 川沿い空間の活用の幅を広げる。(川に開いたまちづくりに貢献)
- 川の魅力を発信する拠点となる。(拠点を結ぶネットワークに貢献)
- ▲ 水面での活動について、管理者等と協議が必要となる。

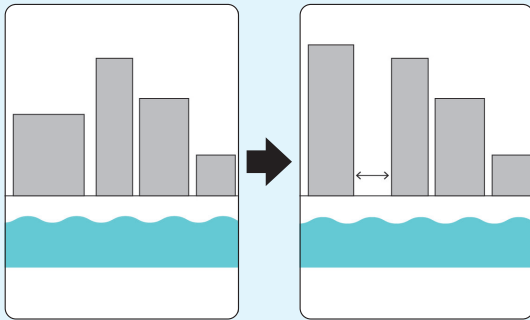
7 親水テラス

対象規模 (☒ 大規模 ☐ 中規模 ☐ 小規模)

- 水辺に近づくテラスを設ける。
- 川をより身近に感じる場として、川のイメージ向上に貢献できる。
- 人々の憩いの場として活用できる。

8 隣棟間を空ける

対象規模 (☒ 大規模 ☐ 中規模 ☐ 小規模)



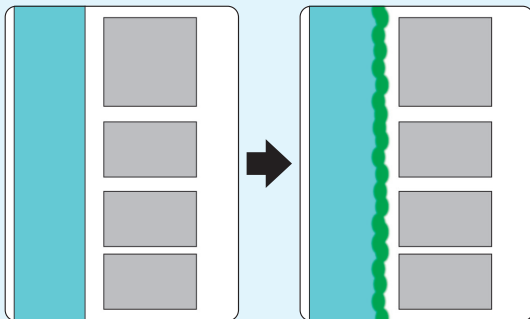
●隣棟間を空ける。

○川沿いの閉塞空間を解消できる。

○隣棟間の空地は、建築物の低層部の賑わいの場、憩いの場として活用できる。

9 護岸の緑化

対象規模 (☒ 大規模 ☒ 中規模 ☒ 小規模)



●緑地帯を連続で設置する。

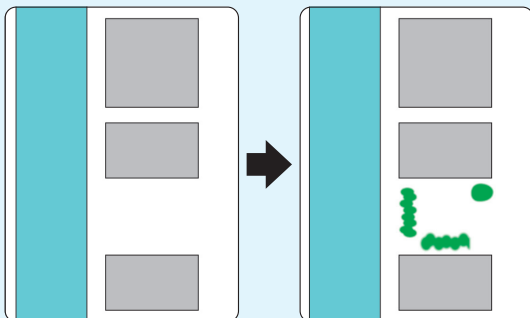
○生物多様性に貢献できる。

○景観の向上に寄与する。

◆川が見えない植栽とならないことが望ましい。

10 隣地間の空間を一体的に整備

対象規模 (☒ 大規模 ☒ 中規模 ☒ 小規模)

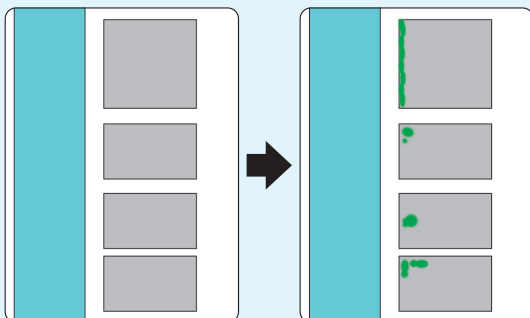


●隣棟間で出来た空地を一体的に整備する。

▲隣地間で連携を取った管理体制が必要となる。

11 沿道建築物上の緑化

対象規模 (☒ 大規模 ☒ 中規模 ☐ 小規模)



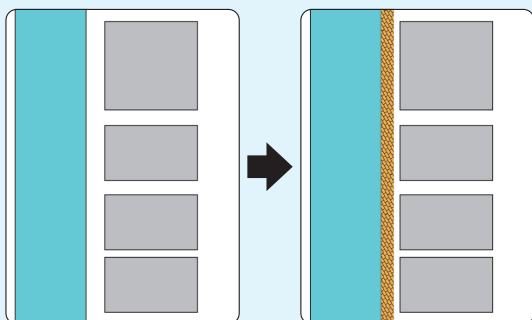
●建築物上に植栽帯を連続で設ける。

○立ち並ぶ建築物に統一感が生まれ、景観の向上に寄与する。

◆水面やビューポイントから見える低層部に設けることが望ましい。

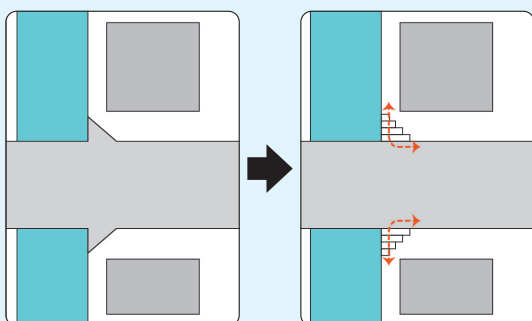
(凡例) ●手法の説明 ●川沿いに与える効果内容 ◆さらに望ましい内容 ▲要検討内容

12 歩道の連続的整備

対象規模 (☒ 大規模 ☒ 中規模 ☐ 小規模)

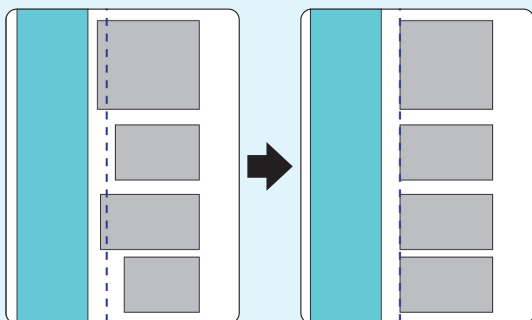
- 民地内に連続した歩道上空地を設ける。
- 転落防止柵や床材などは、周辺とつながりのある統一したデザインとする。
- 水辺空間の連続性に貢献できる。
- ◆誰もが通れる環境が望ましい。
- ◆「2.川に顔を向けた建築物」、「5.川に面したピロティ」を合わせて計画することが望ましい。

13 橋詰広場の整備

対象規模 (☐ 大規模 ☐ 中規模 ☐ 小規模)

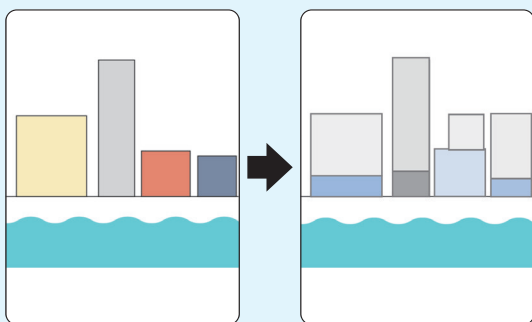
- 水辺空間の連続性の始まりの場を整備する。
- 橋詰広場と民地には境界を設けず、一体的な整備が望ましい。
- ◆「7.親水テラス」のような水辺に近づく場を設けると望ましい。
- ▲公共の場として限定的な使用のみとなる。
- ▲管理者、所有者と協議が必要となる。

14 川沿いの壁面線の統一化

対象規模 (☐ 大規模 ☐ 中規模 ☒ 小規模)

- 限られた敷地内で、隣接建築物の壁面位置を合わせる。
- 水辺空間の連続性に貢献できる。
- ◆「2.川に顔を向けた建築物」「15.川沿いの外壁デザインの統一化」と合わせて計画することが望ましい。

15 川沿いの外壁デザインの統一化

対象規模 (☐ 大規模 ☐ 中規模 ☒ 小規模)

- 川沿いの外壁デザイン(色彩等)を揃える。
- 敷地の大きさに関係なく、取組みが可能である。
- 水辺空間の連続性に貢献できる。
- ◆「14.川沿いの壁面線の統一化」と合わせて計画することが望ましい。

2

川沿いのまちづくりの理想像 モデル検討

開放的な水辺空間について以下4つの環境を想定し、理想像を示します。

川沿い環境① 大規模敷地に高層建築物が立ち並ぶ地域の理想像

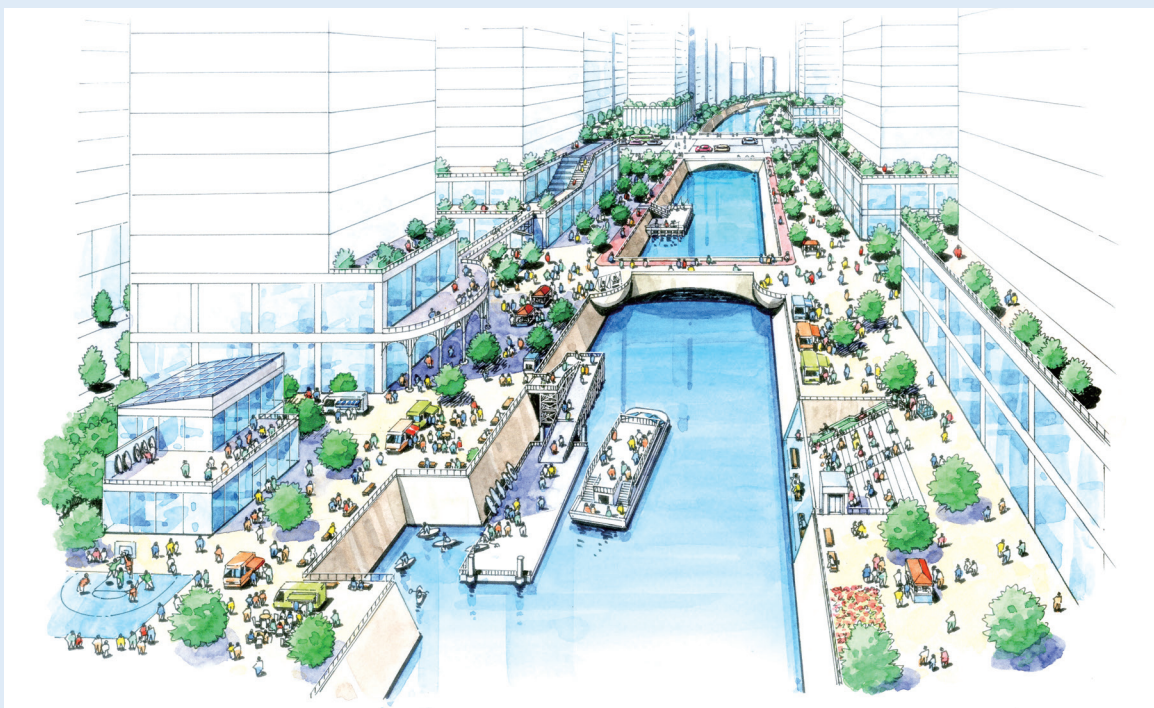
川沿い環境② 中規模敷地に建築物が立ち並ぶ地域の理想像

川沿い環境③ 狭小敷地に建築物が立ち並ぶ地域の理想像

川沿い環境④ 公共建築物の建て替えを想定した理想像

川沿い環境①

大規模敷地に高層建築物が立ち並ぶ地域の理想像



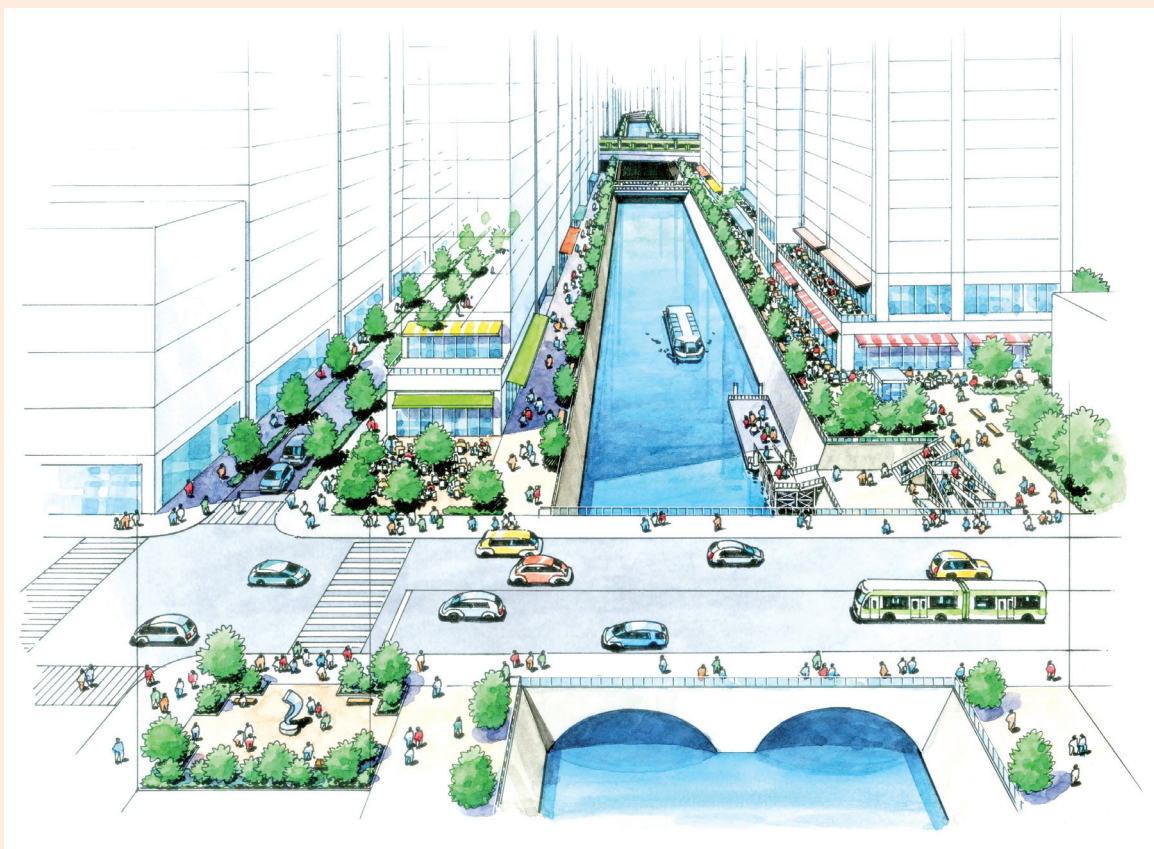
特定の場所を示すものではありません。

【理想像のポイント】

- 川沿いの敷地内には、空地や広場を設け、人の動線及び活動の場を創出しています。
また、各敷地内の空地や広場は、街区全体で一体的な水辺空間となるよう、つながり（ネットワーク）のある水辺空間としており、賑わいがあり、人の集う場所としています。
- 橋詰広場と水辺空間の空地は、連続した魅力ある空間が理想です。
- 安全、安心な川沿いを保ちつつ、水辺や水面で遊ぶ場を設けています。
- 自動車が入れない人中心の安全な空間とし、子どもから高齢者までが安心して楽しめるウォークアブルな空間としています。
- 建築物には、テラスを設け、開放的な空間を構成しつつ、立体的に川を楽しめる街並みとしています。

川沿い環境②

中規模敷地に建築物が立ち並ぶ地域の理想像



特定の場所を示すものではありません。

【理想像のポイント】

- 川沿いの敷地内には、空地や通路を設け、人の動線及び活動の場を創出しています。
また、各敷地内の通路や空地は、街区全体でつながり（ネットワーク）のある配置としており、水辺を歩き、川を見て楽しめるまちを描いています。
- 橋詰広場では、川に近づく場所を構築し、水辺空間とのつながりをもたせています。
- 自動車は主に幹線道路を走り、その他の道路や敷地内に設けた通路は人（歩行者）を優先としたまちづくりとしています。
- 店舗の出入口を川に向けるなど、川に顔を向けた建築物としています。
- 建築物の低層部に設けたバルコニーやテラスを設け、川を眺め楽しめるまちづくりが理想です。



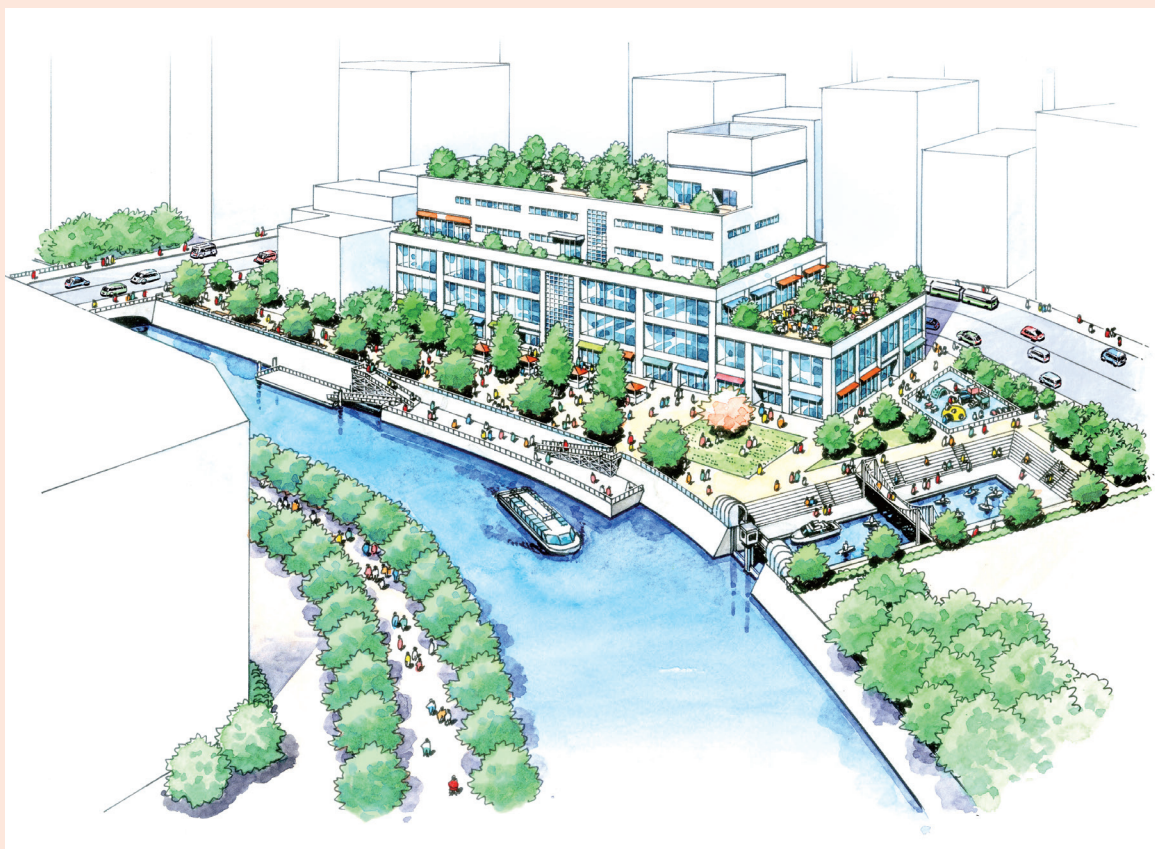
特定の場所を示すものではありません。

【理想像のポイント】

- 狭小敷地のため、建築物は水辺に寄った配置となっていますが、壁面線を揃え、外観や外壁色に統一感をもたせることで、川沿いに良好な都市景観を構築しています。
- 建築物に設置する設備は川から見えない設えとするとともに、看板は低層部のみとするなど、川からの見え方に配慮したまちづくりとなっています。
- 川沿いの建築物は、内部から川を眺められる構造としています。
- 橋詰広場と建築敷地は、分け隔てなく一体的なものとして、開放的な空間を創出しています。
- 狭い空間の中でも、船着場を設け、川に近づける場所を創出しています。

川沿い環境④

公共建築物の建て替えを想定した理想像



特定の場所を示すものではありません。

【理想像のポイント】

- 川沿いの立地を活かし、水辺空間に広場を設け、子どもから高齢者までが楽しめる公共空間を創出しています。
- 建築物の用途は、全てが公共の用途ではなく、低層部に商業用途を含めた複合建築物として措定しています。
- 敷地内に川を引き込み、一部を防災用船舶の停船場とすることで、防災機能の向上が図られています。また、平時には、水面で安全に遊べる場所として活用できる利点を描いています。
- 建築物には、川を眺められるテラスや屋上を設け、建築物上からも川を楽しむ計画となっています。
- 奥にある橋詰広場から連続した空地や広場を設けることで、開けた水辺空間を描いています。
- 公共建築物ではありますが、多くの人が集う場所となることが理想です。